

151108 1 1月朝礼訓示 #1511

8年前(2007年)の11月に、当院に赴任された小野山薫理事長が11/7に亡くなりました。小野山先生は昭和37年に九大医学部を卒業し、翌38年には第二内科に入局なさいました。病理学教室(故 田中健蔵教授)の大学院を修了後、米国オハイオ州クリーブランドクリニックに留学し、昭和59年からの第二内科助教授を経て、平成3年に新日本製鐵(株)八幡製鐵所病院副院長に栄転されました。先生は、研修医時代の医局長で、寡黙な印象でしたが、肝腎な場面では必ず的確なコメント、そして慎重な判断を下される大変頼れる先輩のお一人でした。2008年4月に、誠愛リハビリテーション病院に誘われた際は、迷うことなく先生の半年遅れで院長として赴任することを決意した次第です。当に同年の今頃、左上腕の病的骨折から肺がんの骨転移が判明した時には、誰しも一様に大きなショックを禁じ得ませんでした。先生は常に前向きかつ強靱な精神力で、免疫療法、化学療法などを積極的に繰り返し受けてこられました。上腕骨の骨切り術や胃や肝臓の転移巣に対する外科的治療なども諦めることなく継続され、永らく小康状態のもと車を自ら運転し通勤されておられましたが、この数カ月は食欲が低下しタクシー通いに変更されました。3週間前(10/15)に、帰宅時ご自宅前で転倒され、不運にも外傷性クモ膜下出血/脳挫傷/硬膜下出血をきたし、九州中央病院に緊急入院。2週間の経過で意識レベルの変動を繰り返しながら、漸く摂食嚥下訓練も始まり快方に向かっておられたのですが、一方でDICが徐々に進行し血小板も1万を下回り、今週に入り痙攣後から意識レベルが次第に低下、昨夜ご家族皆様に見守られる中を静かに永眠なさいました。

先生は常に冷静沈着で口数少ないものの、未熟な我々に対し優しい笑顔で実には的確かつ示唆に富むご意見そしてご英断を与え続けて下さいました。大学の腎臓研究室主任～助教授時代に培われた学問に対する厳しい考え方、鋭い臨床力、そして何よりも北九州八幡で磨かれた卓越した経営力、媚びない人間力を兼ね備えていらっしゃいました。安定した病院の現状は、小野山理事長のリーダーシップの賜物と感謝しております。先生亡きあと、残された我々は実に不安で一杯ですが、事ある毎に「決して軸のブレない、誠実かつ優しい心根の小野山先生ならどう判断し決定されるだろうか」を常に自問自答しながら、今まで以上に職員一同力を合わせ精一杯頑張る所存です。

小野山先生、今まで本当に有難うございました。そして8年間ご苦労様でした。 合掌



第4代理事長 小野山 薫

平成19年11月～平成25年3月24日～

昭和12年4月6日生	本籍 福岡県
昭和37年3月	九州大学医学部医学科卒業
昭和38年4月	九州大学医学部付属病院第二内科入局
昭和51年7月～53年8月	米国オハイオ州クリーブランドクリニック留学
昭和58年10月	九州大学付属病院腎疾患治療部助教授
昭和59年10月	九州大学医学部第二内科助教授
平成3年4月	新日本製鐵(株)八幡製鐵所病院副院長
平成5年6月	新日本製鐵(株)八幡製鐵所病院院長
平成9年3月	医療法人社団新日鐵八幡記念病院理事長、院長
平成14年3月	おのやまクリニック院長
平成19年11月～	医療法人社団三光会理事長
平成22年6月～	社会福祉法人筑紫会理事長

医師免許番号 182690

昭和38年5月

医学博士(九州大学、甲402号、昭和42年10月)